

安全最優先！ これまでも・これからも

今年も7月1日より全国安全週間が始まりました。全国安全週間は、労働災害防止活動の推進を図り、安全に対する意識と職場の安全活動のより一層の向上に取り組む週間です。

昭和3年に第1回が実施されて以来、一度も中断することなく続けられ、本年で第89回を迎えたそうです。ということは、戦中・戦後の時期、わが国の経済・社会も、政治も混とんたる状況の中でも整齊と取り組まれてきたということ。

今、私たちの職場は、現場を熟知し、後輩を指導してきたベテラン層の卒業によって、世代交代のピークを迎えています。社会人採用者を含め18歳から65歳までの年代層の広がり、三交替職場をはじめ、あらゆる業種・業態における女性の活躍、加えて、機械化・システム化によるチーム作業から一人作業への移行など、数十年前に卒業された先輩たちには想像だにし得なかったであろう、ものづくり現場の様変わり。

しかし、私たちは全国安全週間の取り組み同様に、如何に職場状況が変わろうとも、常に働く仲間の安全を意識し種々の取り組みを進めてきました。「ご安全に」の声掛けは、まさに、その思いを引き継いだ行動の一つでもあるのです。

今年も暑い夏がやってきました。摂氏30度を優に超える気温の中、基幹労連に関わる多くの職場は、それ以上の暑さが続きます。熱い暑い夏場の業務を「〇〇夏の陣」とは誰が言い出したのでしょうか。気を抜けばそこに落とし穴があるかもしれません。それは誰のせいでもなく、自らの緊張感の途切れが招くことでもあります。緊張感の維持には限界もあり、お互いの目配り・気配りは、夏に限ることではありませんが大切な行為です。

基幹労連の本年の死亡災害発生状況は、1月、2月に連続して発生したものの、3月以降は小康状態を保ち、各職場、労使の努力が功を奏したかに見えましたが、5月下旬以降、立て続けに発生し、足下未確認情報を含め、9件10人もの尊い命を失っています。

災害、とりわけ死亡災害の発生は、全てを一瞬にして止めてしまいます。言葉を選ばずに言えば、ご家族・同僚の思い出、操業・業務、もとより大切な人の鼓動・命の火を消してしまうのです。残るのは、心の痛みと無念のみ。私たちの取り組みは、安全活動が全てではありません。しかし、安全と健康がなければ全ての活動が成り立ちません。足下の政策実現活動も然りです。

平成28年の全国安全週間のスローガンは、『見えますか？ あなたのまわりの見えない危険皆でつける安全管理』です。今私たちは、あらゆる危険排除を目的としたリスクアセスメントを労使一丸となって進めています。一人ひとりの気付きと行動、互いの指摘が我が身を守り、仲間を守ります。

基幹労連の7月は安全衛生対策強化月間。安全最優先は、いつの世も変わりなく、これまでも・これからも！

ご安全に

2016年7月1日

日本基幹産業労働組合連合会

事務局長 神田 健一